

インターナショナルサークル プロジェクト

多文化共生のための地域スポーツサークル創設

一橋大学H班 旭麻衣 荒井巖士
江口友裕 日下部匠

目次



• 緒言



• 現状・課題



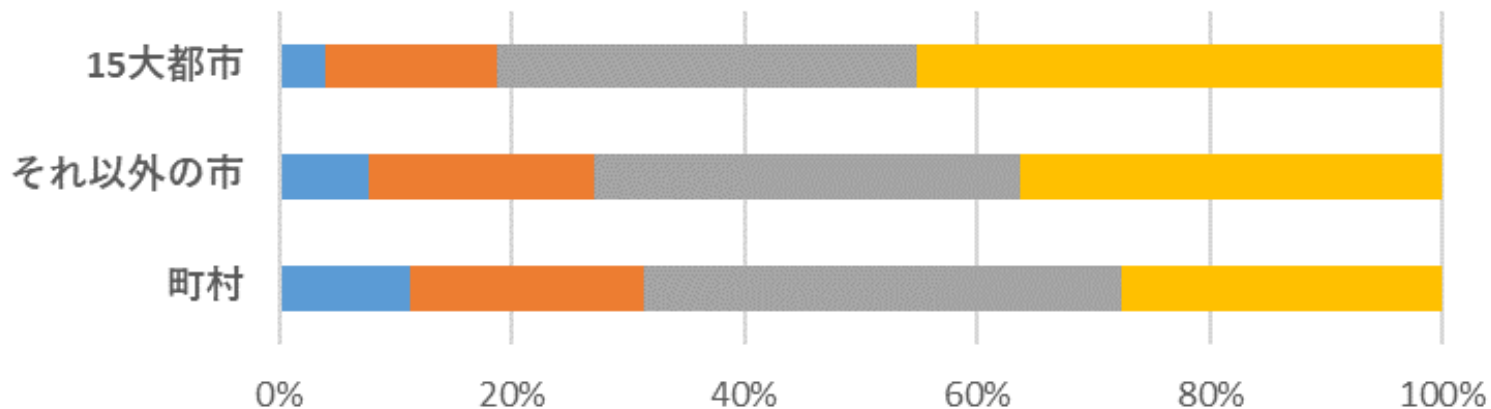
• 提言



• 総括

コミュニティの希薄化

地域の人々との付き合い



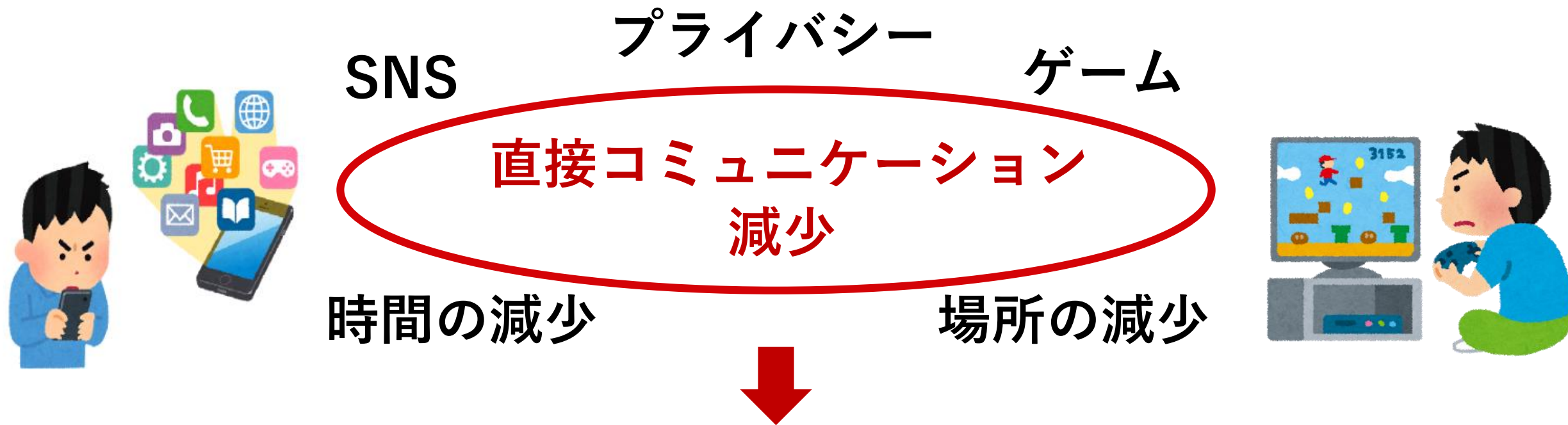
- とても親しく付き合っている
- やや親しく付き合っている
- 付き合いはあるがそれほど親しくない
- ほとんど、もしくは全く付き合いがない

平成17年度『国土交通白書』をもとに作成
調査対象：東京都区部及び14政令指定都市

地域の人々との交流
が少なくなっている



コミュニティの希薄化



近年増加する在留外国人との
コミュニケーションは
取れているのか？

意識していますか??

- ・コンビニの店員さん
 - ・ファストフードの店員さん
- など…



日本全体が外国人に対して対応できていない。労働力として必要となる外国人とのコミュニケーションから逃避してて本当に良いのか。 **数年後本当に困るのは日本人なのは。**

外国人とのコミュニケーション

外国人とのコミュニ
ケーションの取
りにくさ

二重の壁

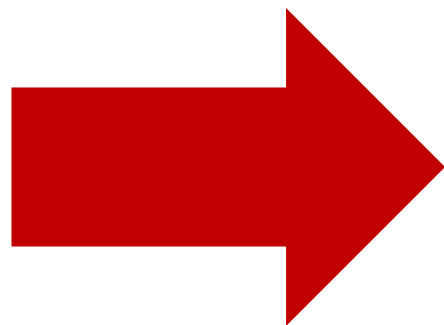
希薄化

「人間関係の壁」

→
一層の
孤立化

多文化共生社会の実現へ

言葉が通じない。
コミュニケーション
も取ってくれない
日本は生きにくい。



スポーツを通じて交
流のきっかけを作り
出し、多文化共生実
現の一步を進めよう

多文化共生とは？

「国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的な違いを認め、対等な関係を築こうとしながら、共に生きていくこと」

国土交通省HP参照

http://www.mlit.go.jp/kokudokeikaku/souhatsu/h18seika/04kitakantou/04_02honpen1.pdf

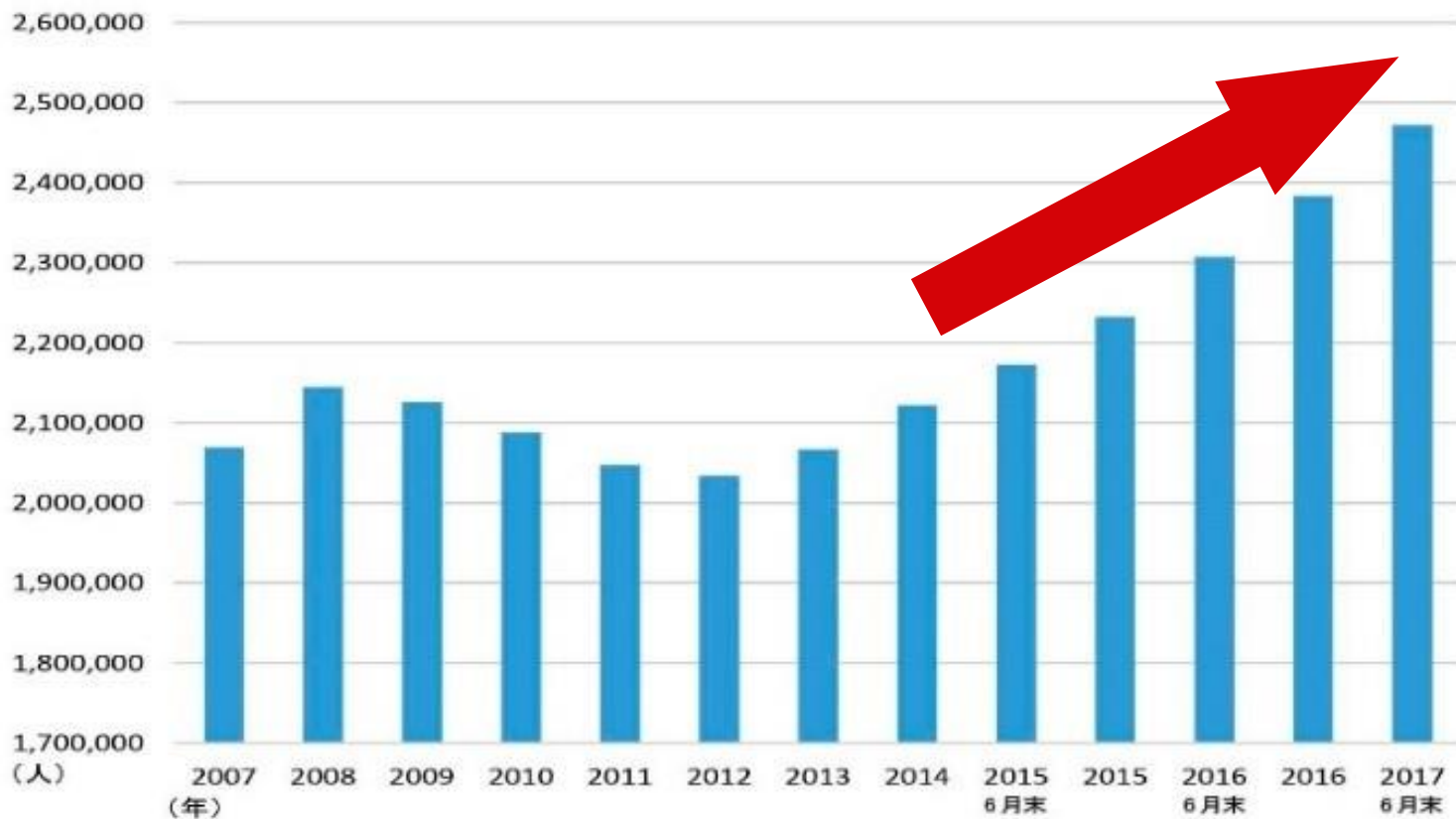
実態把握①二次データの収集

目的

- ・ 在留外国人の人数を調べる
- ・ 多文化共生の課題を調べる
- ・ 実施済みアンケートから外国人の求めることを把握する
- ・ 日本の多文化共生政策を調べる

現状

増え続ける在留外国人



日本の人口減

+

外国人の人口増

外国人の割合上昇

出典 法務省 「平成29年末現在における在留外国人数について」

在留外国人受け入れの強化

- 2018年6月15日に安倍政権によって定められた「**経済財政運営と改革の基本方針2018**」に**単純労働に従事する外国人労働者を受け入れる政策**が盛り込まれた。

※現代ビジネス 2018/7/31「安倍政権が突然「外国人受け入れ」に転換したわかりやすい事情」より

- 2018年10月12日菅官房長官は「全国各地の現場では人手不足が深刻化している。即戦力となる**外国人材を幅広く受け入れる仕組みをつくることは急務だ**」と主張した。

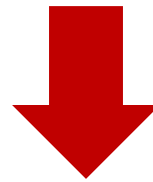
※朝日新聞デジタル 2018/10/12「官房長官「外国人労働者受け入れ急務」新在留資格を論議」より

日本での外国人とのトラブル

いちょう団地自治会長の堀江さんによると、

「昔は**ルールやマナー**が浸透せずゴミや騒音問題等トラブルが多発。市の取り組みで多言語対応の貼り紙などを増やした結果トラブルはかなり減少。今でも言葉や宗教の違いで苦労している。」

コミュニケーションがとれない



意図せずとも問題を起こしてしまう

多文化共生の課題

さまざまな壁をこえる必要がある



在留外国人の声

日本人と付き合いがない外国人	55.5%
外国人と付き合いがない日本人	44.90%
日本人と外国人の交流が必要とされると感じる外国人	42.30%
地域の日本人との交流、イベントに参加したいと考える外国人	51.30%
地域の外国人との交流、イベントに参加したいと考える日本人	28.10%

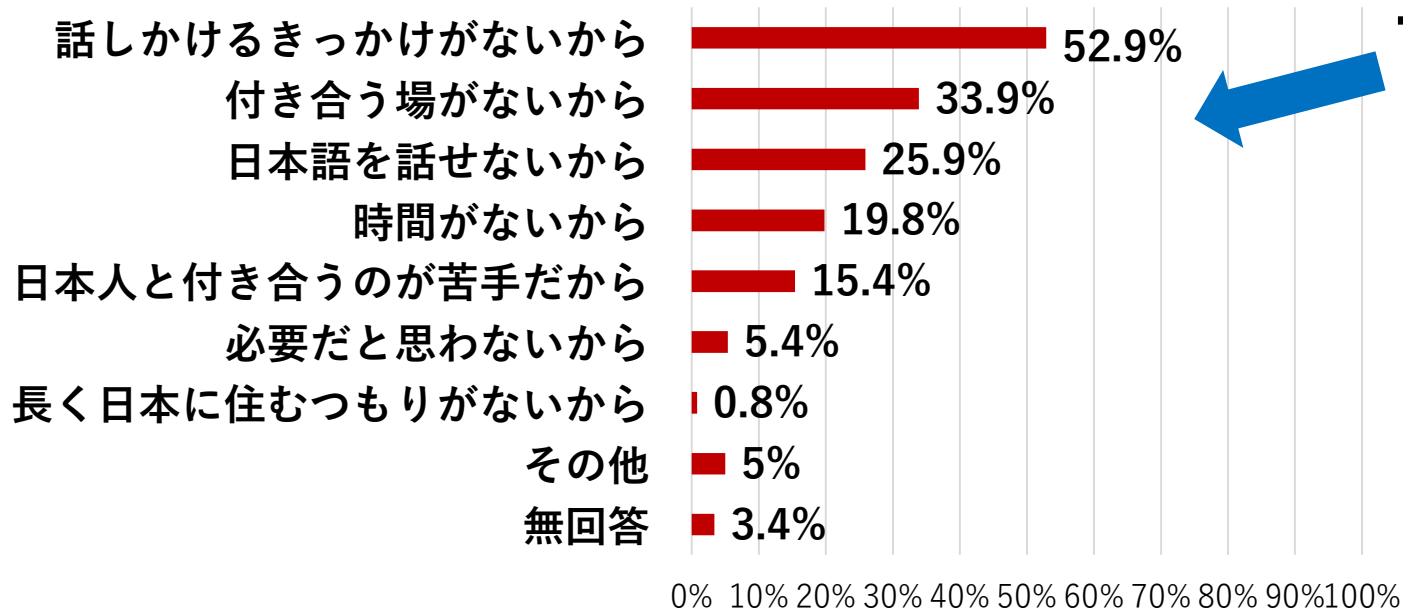
「平成 27 年度新宿区多文化共生実態調査」をもとに作成
対象：日本人20歳以上2000人、外国人20歳以上5000人

日本人と外国人
人の交流の機
会は少ない

交流に関して
外国人→積極的
日本人→消極的

問題の本質

外国人が日本人とのつきあいが無い理由



上位に
「話しかけるきっかけがない」
「付き合う場がない」

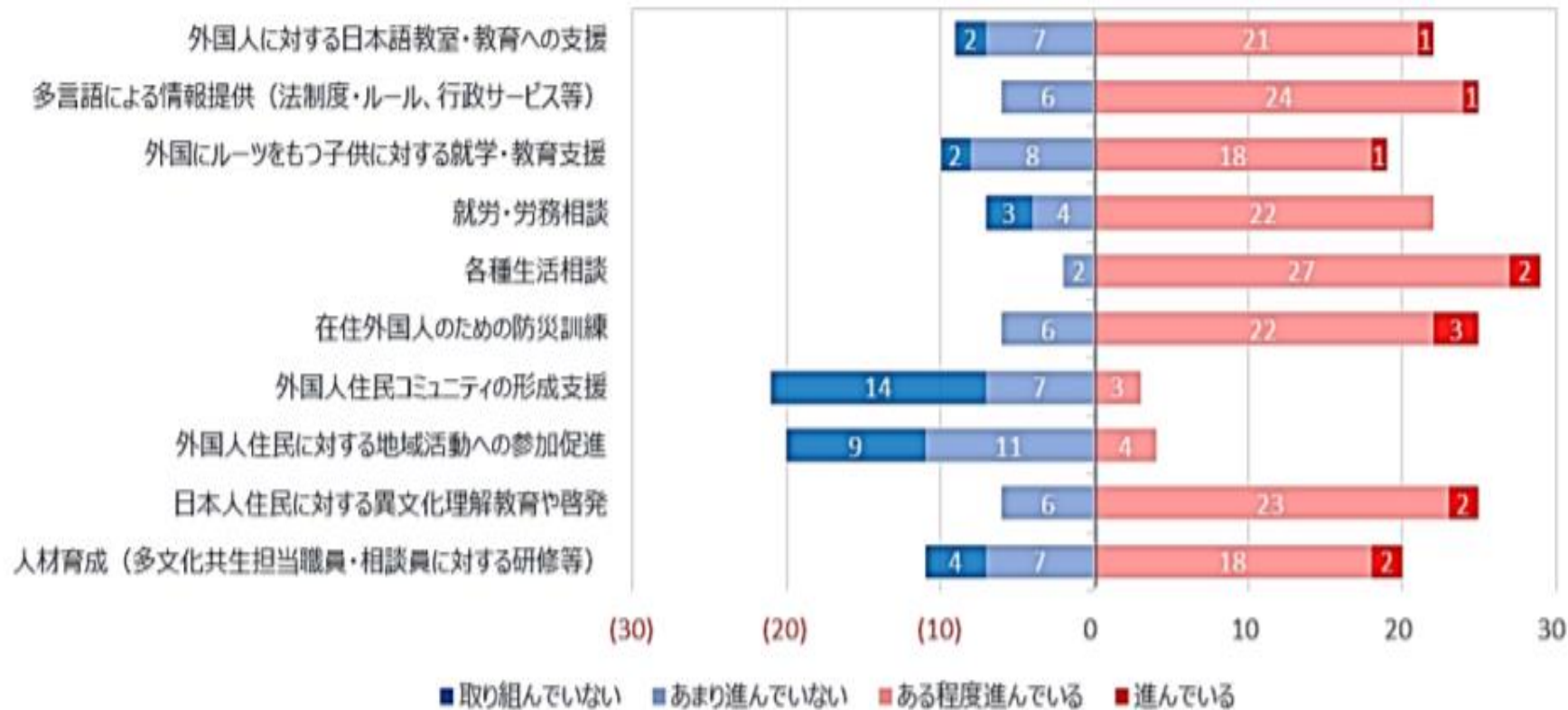


つきあう気があっても
きっかけがないのが現状

「平成 27 年度新宿区多文化共生実態調査」をもとに作成
対象：日本人20歳以上2000人、外国人20歳以上5000人

遅れる日本の多文化政策

現在の多文化共生施策・取り組みの内容および状況



外国人コミュニティの形成支援

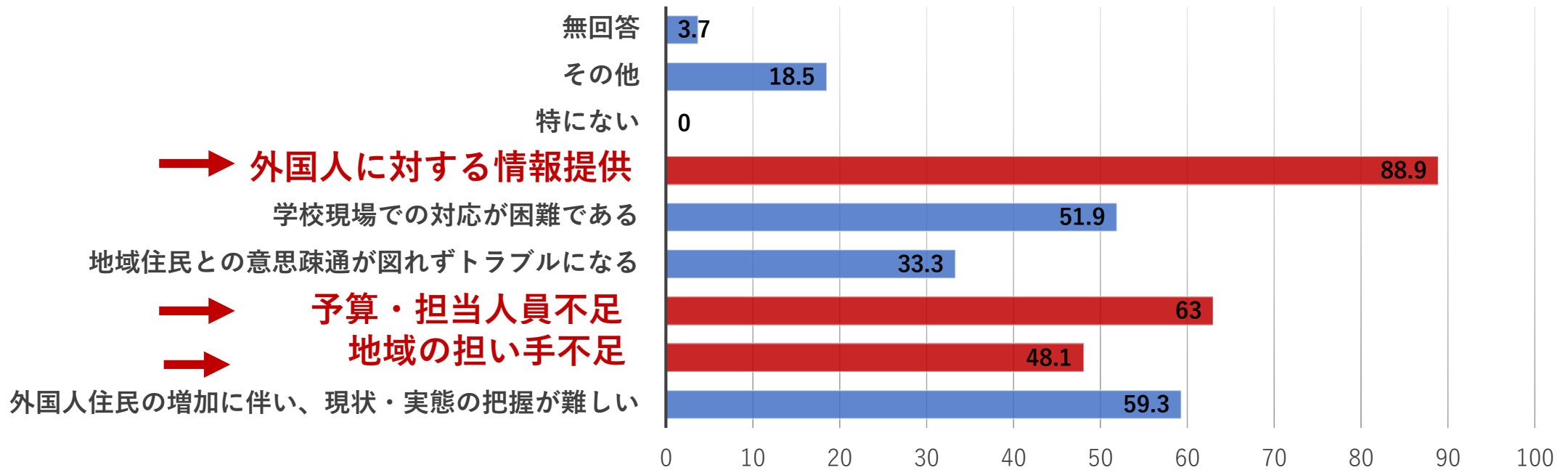
外国人住民に対する地域活動への参加促進

出典 公益財団法人 日本国際交流センター
調査対象：47都道府県および20政令指定都市

「多文化共生と外国人受け入れについてのアンケート調査2017」

政策が遅れる理由

都道府県及び政令指定都市に聞いた「多文化共生政策の課題」



(公益財団法人)日本国際交流センター (JCIE) 「多文化共生と外国人受け入れ」に関するアンケート 2015 - 調査結果報告書をもとに作成
 調査対象：47都道府県および20政令指定都市

目的

- ・ 実際に多文化共生を実現させている地域の成功要因を探る。
- ・ 在留外国人に対するインタビュー調査を通じ、実際に感じている問題を明らかにする。
- ・ 外国人が交流に対して前向きに参加できるものを明らかにする。
- ・ スポーツでの解決策を模索する。

インタビュー①

インターナショナルフェスティバルin川崎

①調査対象：フェスティバル参加者

(出身：スリランカ、中国、ブラジル等)

②時期：2018年7月8日

③方法：半構造化インタビュー



【得られた知見】

- ・言語の壁が原因となり、日本人と交流しにくい
- ・スポーツイベントがあれば参加してみたいと考えている
- ・このような大規模なイベントではコミュニケーションは事務的のもののみ

インタビュー②

いちょう団地 自治会長堀江氏

- ①調査対象：いちょう団地自治会長の堀江氏
- ②時期：2018年9月3日
- ③方法：半構造化インタビュー



【得られた知見】

- ・日本語教育をボランティアの方が行っている。大学生や主婦層が多い
- ・地域で外国籍住民支援団体「多文化まちづくり工房」が定期的にスポーツレクを実施している
- ・いちょう団地は精力的に交流政策を行っているため上手く運営できているが今後の外国人増加により各地で問題が発生する可能性が高い



インタビュー③

多文化まちづくり工房代表早川氏 サッカー参加者

- ①調査対象：多文化まちづくり工房代表早川氏 & サッカー参加者
- ②時期：2018年9月16日
- ③方法：半構造化インタビュー



【得られた知見】

- ・参加のきっかけとしてはサッカーをやりたいという欲求
- ・参加者の口コミによって広まった
- ・サッカー中は日本語とジェスチャーが主に使用
- ・サッカー後は食事等の交流も



インタビュー調査から…

言語の壁が障害で交流がしにくい



ノンバーバルなスポーツを通じて交流を促進

日本人と在留外国人の
コミュニケーションを
促進する施策として

「**インターナショナルサークルプロジェクト**」

(ICP)

を提案します

ICPとは

手段

外国人と日本人の交流の場として
地域のスポーツサークルを創設

効果

スポーツを通じた交流
活動外の副次的な交流

目標

在留外国人の日本での交流の場の提供、情報交換の促進
在留外国人の生活の潤滑化

なぜスポーツサークルなのか

①

幅広い世代が参加可能

②

ナンバーバルで行える

③

地域コミュニティの形成に寄与

④

継続的な交流が可能

提言先とターゲット



市区町村

管轄

ボランティア教室は
各市町村が管理

日本語教室

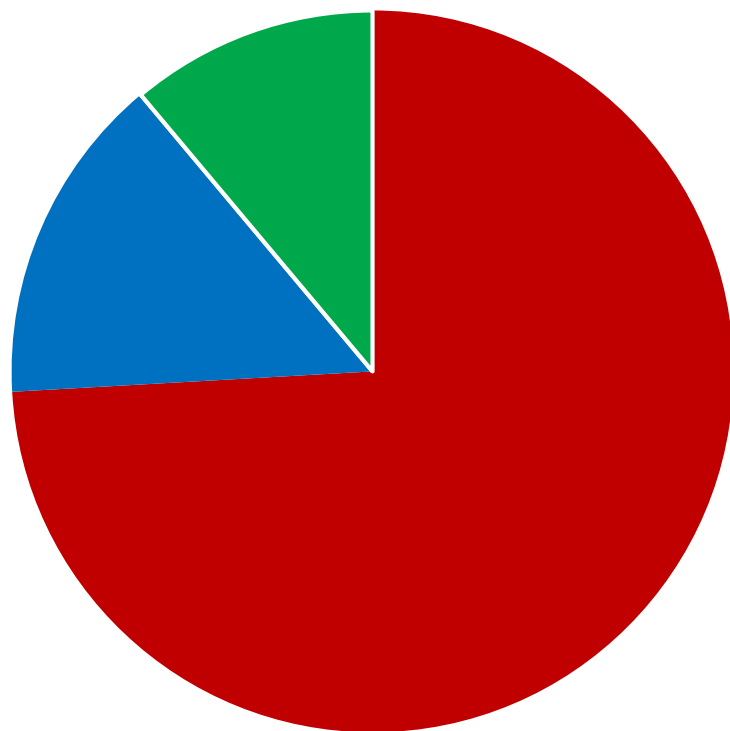
市町村に登録される
「社会人サークル」

地域スポーツ
サークル



市町村と多文化共生

今後の多文化共生政策の重要性に関する質問

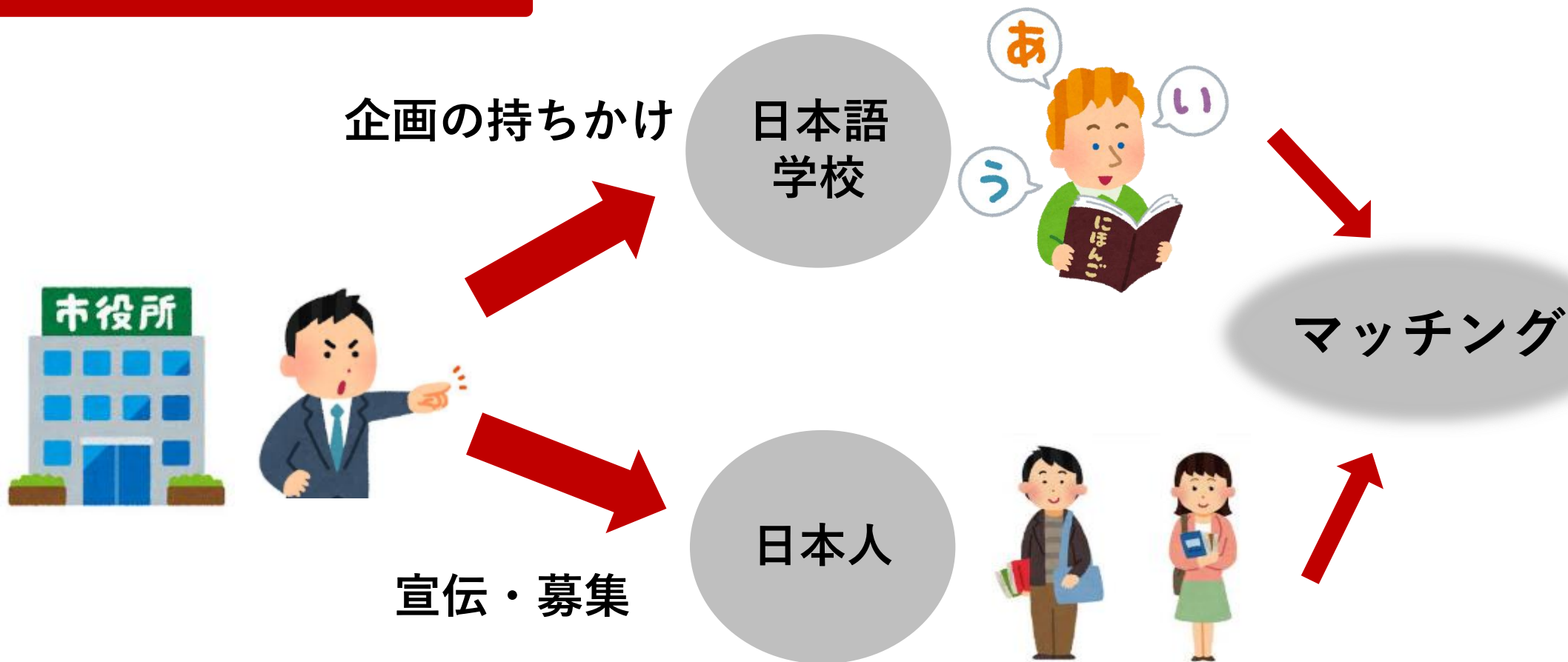


- 重要性を増す 74.1%
- 変わらない 14.8%
- 重要でなくなる 0%
- 分からない・その他 11.1%

今後求められていく政策であることは確実

ICP (概要)

STEP 1 市の働きかけ



ICP (概要)

STEP 2 市への登録

企画者
(外国人)



依頼

サポーター
(日本人)



社会教育関係団体
として登録

市町村役所



宣伝
仲間
集め



規定人数
まで集め
る



宣伝
仲間
集め



役所に登録することで
場所の確保が容易に。
宣伝もしやすくなる！

社会教育関係団体

「社会教育関係団体」とは、法人であると否とを問わず、公の支配に属しない団体で社会教育に関する事業を行うことを主たる目的とするものをいう(社会教育法第10条)

条件：一定の構成員数。非営利団体であること。

特権：公共施設の優先利用。使用料の減免。

例：婦人会、PTA、子ども会、スポーツや文化団体

サポーター

サポーター (日本人)



【募集方法】

- ・元あるサークルなどからスカウト
- ・ポストへのチラシ投函、市営の施設（バス等）に広告

【報酬】

- ・表彰制度
- ・市営施設各種割引制度
- 例：市民体育館施設無料使用权
市営プール、市営ジム、市立図書館等

【役割】

- ・役所との連携
- ・初期メンバーの勧誘

【ターゲット】

- ・スポーツに興味のある社会人
- ・時間に余裕のある社会人

ICP (概要)

STEP 3 基盤づくり

【広報活動】

- ・ 地域密着型の広報
- ・ SNSのアカウントを作成、発信
- ・ HP作成

【役職決め】

- ・ サークル代表
- ・ 広報係
- ・ 会計係
- ・ 体育館の予約係
- ・ 備品係
- ・ イベント係

【資金集め】

- ・ 主にサークル費の回収により運営
使い道
- 場所代、備品、イベント開催費
- 低所得者も参加できるように参加費は低く設定

【日程決め】

- ・ 出来るだけ人が集まりやすい土日、平日夜
- ・ 月2回以上は活動できるようにする

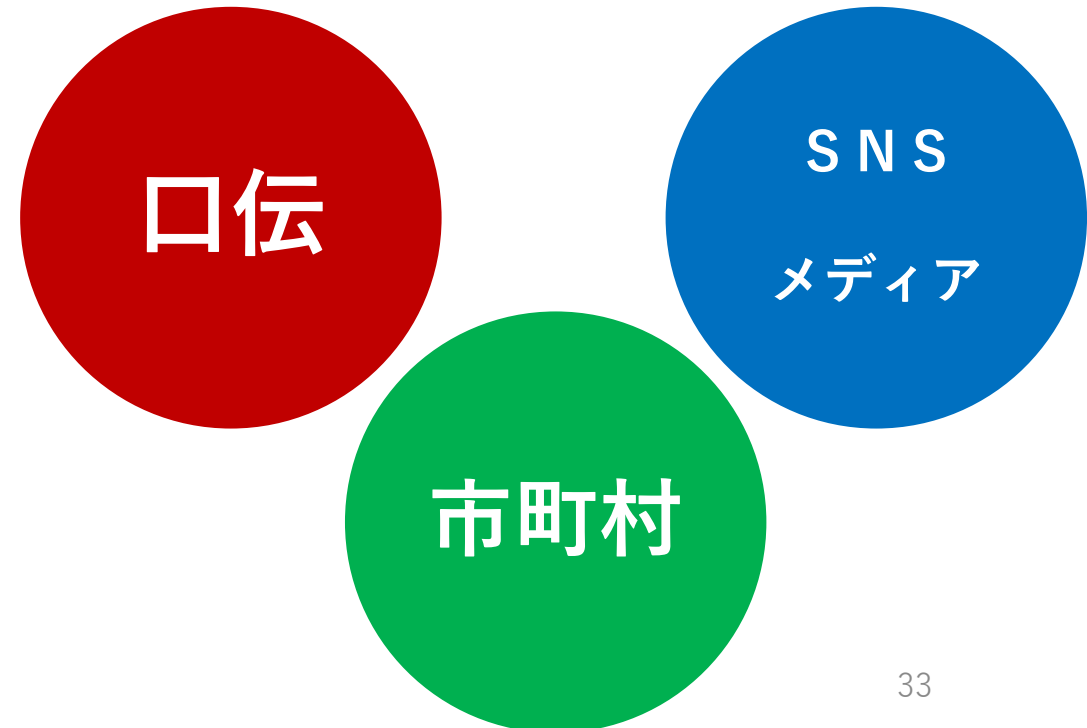
情報伝達の大切さ

様々な地域の自治体では多文化共生のための活動を行っているが

情報がきちんと伝わっていない

では、外国人はどのようにして情報を得ているのか？

1位	テレビ・新聞・雑誌・インターネット等	58.3%
2位	日本人の友人・知人	56.5%
3位	同じ国出身の友人・知人	45.0%
4位	市町村都道府県の広報誌・ウェブ	27.1%
5位	市町村都道府県の窓口	23.4%
6位	同じ国修身の人が集まる団体・店	12.3%



平成28年法務省「外国人住民調査報告書」 「生活に役立つ情報を得る場所」
調査対象：日本の37市区に在留する18歳以上の外国人

宣伝・集客方法



SNS



幅広い人に情報を届けることが可能



口コミ



同じ国籍の友人や日本人の友人から情報を得られる



掲示板への掲載



地域に密着したサークルの情報を得られる

ICP (概要)

STEP 4 活動開始！！

一緒にスポーツを！

サークル活動後も！

日常生活でも！



ICP（概要）

STEP 5 継続的な組織づくり

【社会人サークルの主な解散理由から学ぶ】

- ・ 目的の異なるメンバーの増加
 - 活動内容を明確化し、サークル参加時に入念に確認
- ・ 欠席者の増加
 - 諦めずに継続（いちょう団地早川氏の助言）
 - 定期的にイベント開催
 - メーリスなどでその都度出席確認

ICP（概要）

STEP 6 アンケート調査

半年に一度サークルのメンバーに対してアンケートを実施する

- ① 現在のサークル活動に満足していますか。
- ② この活動によって日本人または外国人との交流は増えましたか。
- ③ 現在困っていることはありますか。あるとしたら何ですか。
- ④ サークル活動の中で特に楽しかったイベントなどありますか。
- ⑤ これからも活動を続けたいと思いますか。

→各項目に点数を設けICPポイントを算出

ICP（概要）

STEP 7 市での検討

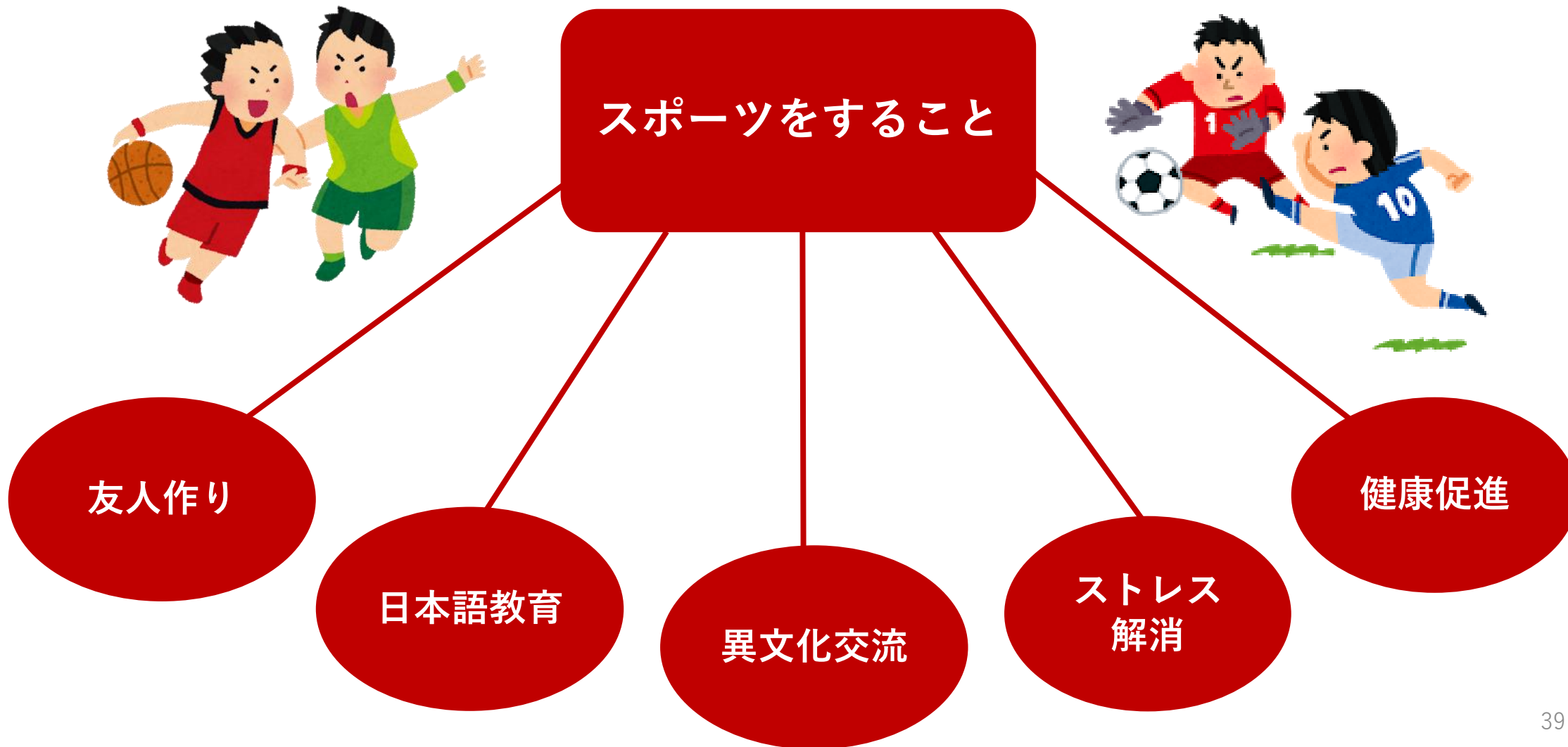
ICPポイントをもとに半年に一度報告会を実施

- ・ ICPポイントの高いサークルの良かった点
- ・ ICPポイントの低いサークルの改善点

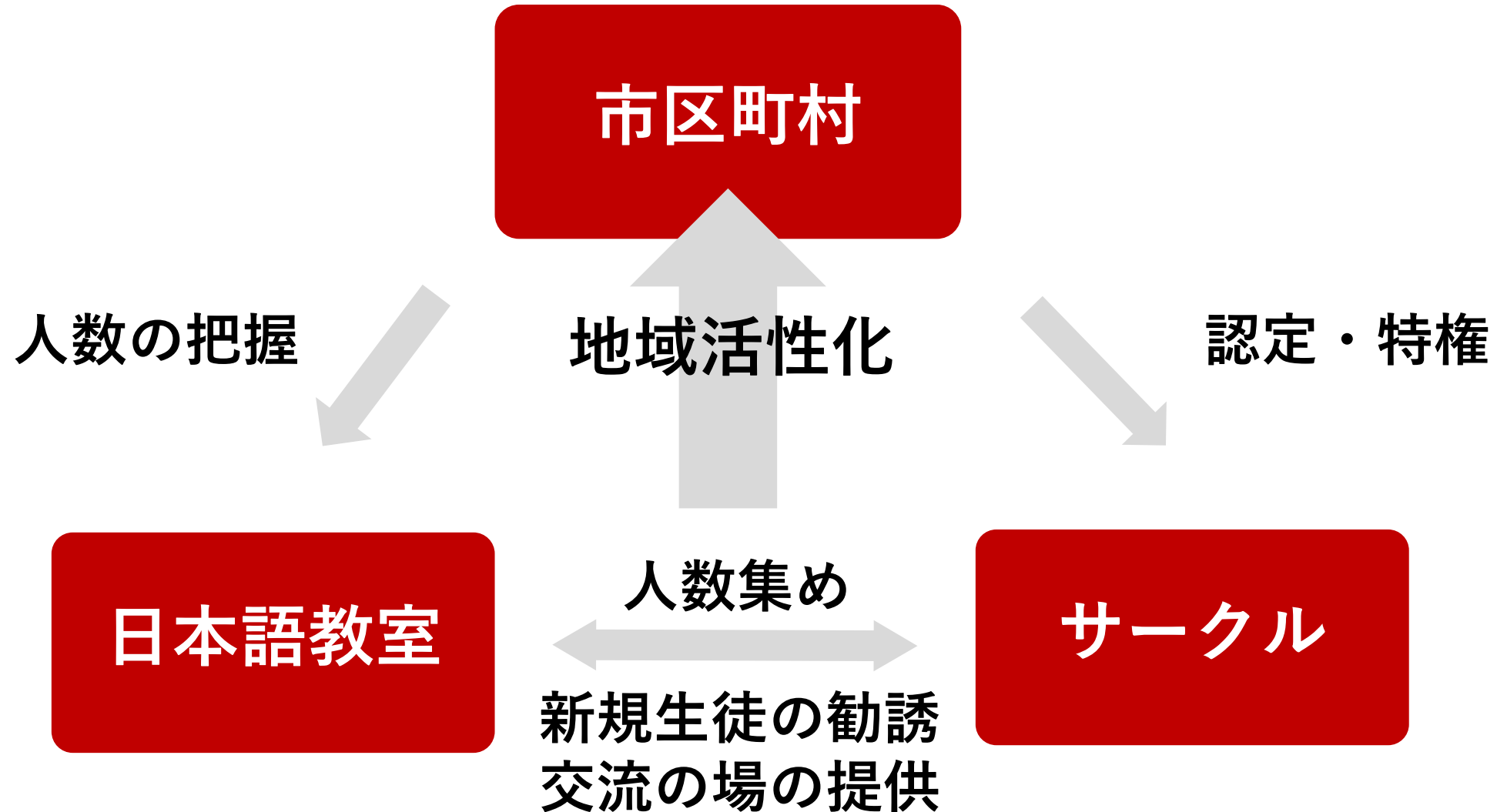
→情報を共有し、今後のサークル活動に役立てていく



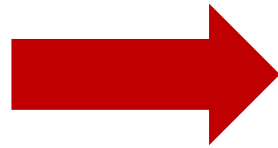
スポーツを中心に…



期待される効果



期待される効果



日本人と外国人との交流の場

日常的な異文化交流
コミュニティ形成の促進

多文化共生が成功すると・・・

社会不安
の解消

日本人に
にとっての
メリット

?

在留外国
人にとっ
てのメ
リット

様々な情
報の伝達

低収入職
業からの
脱却

労働者の
確保

孤立防止

多文化共生社会の形成

日本人にとっても、在留外国人にとっても
暮らしやすいコミュニティの形成



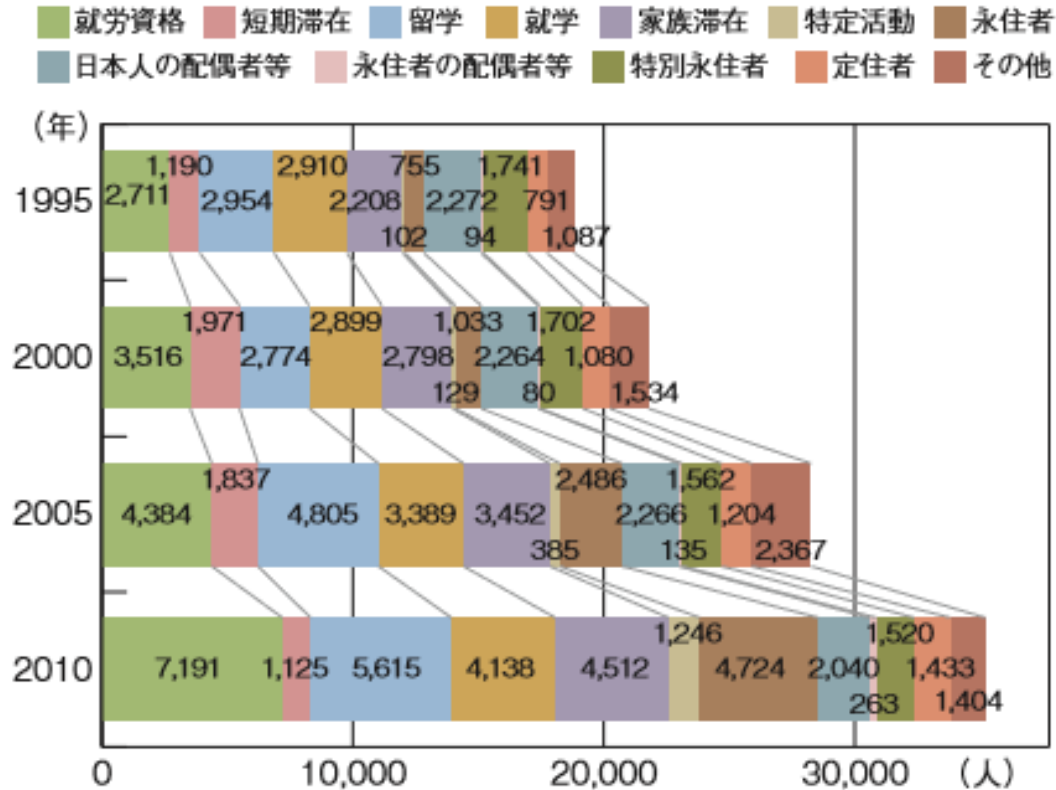
参考文献

- 公益財団法人 日本国際交流センター「多文化共生と外国人受け入れについてのアンケート調査2017」
http://www.jcie.or.jp/japan/wp/wp-content/uploads/2018/02/Survey-Report-2017_Summary.pdf
- 中央区 「社会教育関係団体登録制度について」
<http://www.city.chuo.lg.jp/bunka/syogaigakusyu/torokuseido/syakaikyouikukannkeidantaitouro.html>
- 名古屋国際センターNIC「スポーツで国際交流～外国人が参加するスポーツサークル～」
<http://www.nic-nagoya.or.jp/japanese/nicnews/archives/6928>
- 平成27年度新宿区多文化共生実態調査
<http://www.city.shinjuku.lg.jp/content/000187020.pdf>
- 法務省報道発表資料「平成29年末現在における在留外国人数について（確定値）」
- リー・トンプソン（2003）『スポーツと多文化共生』
- ボランティア日本語教室ガイド
<http://www.tnvn.jp/guide/>
- つなげーと
https://tunagate.com/search/tokyo/4?&activity_weekday=&activity_timezones=&page=16
- 現代ビジネス「安倍政権が突然「外国人労働者受け入れ」に転換したわかりやすい事情」2018/10/18アクセス
<https://gendai.ismedia.jp/articles/-/56757>
- 朝日新聞デジタル「官房長官「外国人労働者受け入れ急務」新在留資格を議論」2018/10/18アクセス
<https://www.asahi.com/articles/ASLBD3FPLLBDUTIL00Q.html>
- （公益財団法人）日本国際交流センター（JCIE）「多文化共生と外国人受け入れ」に関するアンケート 2015 - 調査結果報告書
http://www.jcie.or.jp/japan/wp/wp-content/uploads/2017/12/JCIE_Survey_2015_Report.pdf

ご清聴ありがとうございました！



在留外国人はなぜ増加しているか？



少子化による労働力不足が主な要因

留学生も増加

移住者に同伴して訪れる家族も存在

出典：新宿自治創造研究所レポート・報告書(2011)

役所でとられている政策

- 企業の集中等で外国人数が多い地域ではすでに進んだ共生政策がとられている

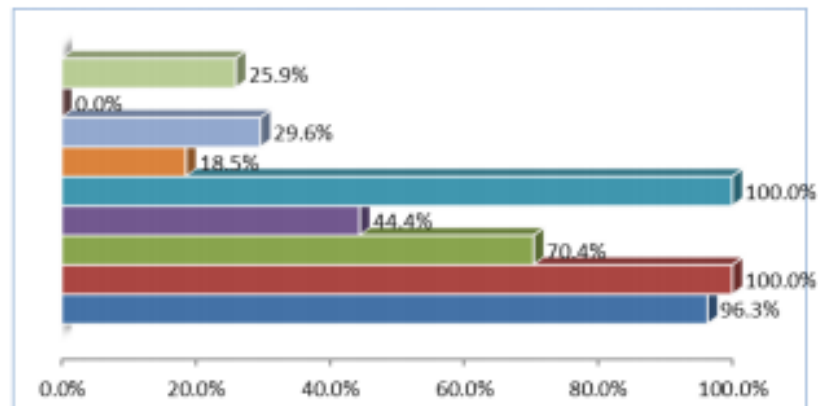
例：いちょう団地（横浜市泉区）川崎市等

- その他多くの地域でも平仮名、英語等でのチラシ作成や日本語教室の開講などが行われている

参考：地方自治体で行っている多文化共生政策

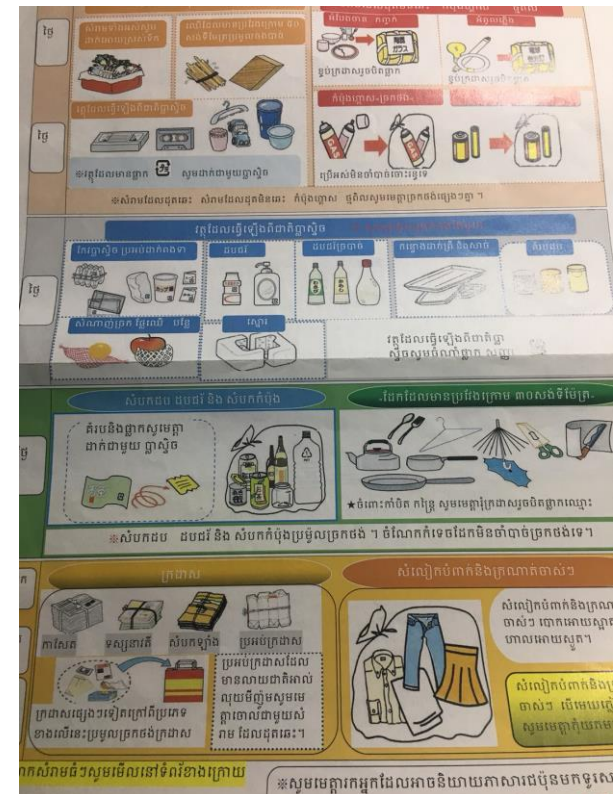
(n=27, 複数回答)

- その他
- 特になし
- 外国人住民に対する地域コミュニティ(自治体等)への参加促進
- 外国人住民コミュニティの形成支援
- 日本人住民に対する多文化・多言語理解・学習などの支援体制
- 就労・労務相談
- 外国籍子供に対する就学・教育支援
- 多言語サービス(各種文書等の多言語化、通訳派遣等のコミュニケーション支援)
- 外国人に対する日本語・日本文化教育などの支援体制



出典 公益財団法人 日本国際交流センター
調査対象：47都道府県および20政令指定都市

「多文化共生と外国人受け入れについてのアンケート調査2017」



いちょう団地で撮影したカンボジア語で書かれたごみ分別に関する情報

日本語教室に関する情報

- ・ 日本語教室の数
現在、東京都23区には162
- ・ 対象
日常会話やひらがなを勉強したい外国人
- ・ 講師
日本人ボランティア
- ・ 活動日
週に1回の教室が多い

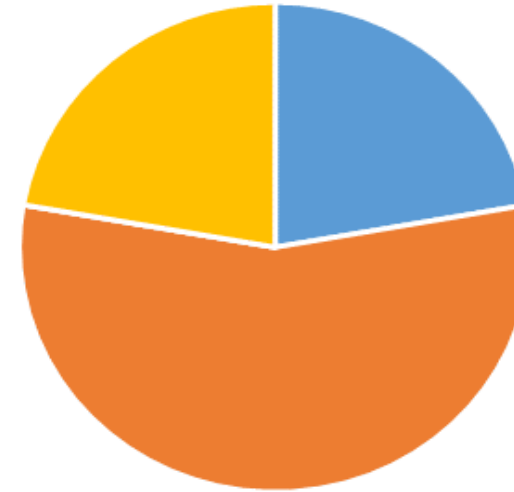
外国人からの需要

日本人と交流したいか



■ とてもしたい ■ できればしたい ■ しなくてよい ■ したくない

スポーツコミュニティへの参加



■ とてもしたい ■ したい ■ しなくてよい ■ 無回答

日本人と交流したいと考える外国人が多く、スポーツコミュニティへの参加も前向きに考えている

地域サークルに関する情報

- 数

現在東京23区で活動しており、「つなげーと」というサイトに登録してあるのが321団体

- 活動日数

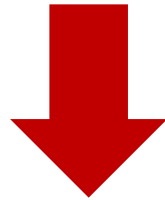
主に土日のどちらかで週一

- 年齢層

特に指定はしていないがほとんどが社会人

運営方法に関して

外国人の提案



日本人と役所の支援で
サークル活動を開始

◎実際の例を参考に



NIC 公式ホームページより
バレーボールサークル

『Nagoya Volleyball』の活動の様子。日
本人7割だが様々な国籍の人が参加し、参
加した喜びを語っている

外国人自身が創設→市町村が後押し

サークル代表の仕事

- ・ 市役所との連携
- ・ アンケートをもとに半年に一度報告会への参加
- ・ グラウンドや開催日時、費用の意思決定

サークル代表以外に、広報担当、会計担当、グラウンド担当、備品担当を設ける

誰がやるかは話し合い

ICP参加費用

サッカーサークルの場合、
活動の初期費用として、約13000円

- ・ サッカーボール5号1500円×3…4500円
- ・ ビブス10枚3000円×2色…6000円
- ・ 空気入れ…1000円

活動ごとの費用

- ・ グラウンド代1000～2000円

初期費用は初めは初期メンバーで払い、後に
参加するメンバーから運営費として徴収する

ICPポイントの算出方法

ICPの満足度をICPポイントで測る

- ①現在のサークル活動に満足していますか？
- ②この活動によって日本人または外国人との交流は増えましたか？
- ③現在困っていることはありますか？あるとしたら何ですか？
- ④サークル活動の中で特に楽しかったイベントなどありますか？
- ⑤これからも活動を続けたいですか？

- ・ ①②⑤→「とてもそう思う」を5点、「全くそう思わない」を1点
- ・ ④→ある場合は2点、ない場合は0点



ICPポイントの数値化、他サークルとの比較

定期的なイベント開催

ICPグループ内のイベント

- ・サークル合同イベント
→ 交流試合、食事会などで交流を広げる
- ・違う種目での活動
→ 体験的に行うことで楽しみを増やす
- ・異文化体験会
→ 異文化理解の促進と交流のきっかけづくり